

牧草の混播例について

良質な自給飼料を生産するためには、草地管理やサイレージ調製の技術が重要ですが、品種の選定や利用目的、栽培条件にあった混播組み合わせを考えることも大切なポイントの一つです。今回は弊社育成品種を中心に、牧草の混播例についてご紹介したいと思います。

1. チモシー（極早生、早生品種）の混播例

チモシーは熟期が早くなるにつれて刈り取り後の再生力が優れる傾向にあります。また、極早生や早生品種では、2番草においても節間伸長茎（出穂茎）がみられることが多く、その程度は品種によって異なります。

これらのことから、極早生や早生品種の混播には、生育が旺盛なアカクロバの早生品種にシロクロバを加えるのが一般的です。弊社がすすめる混播例を表1に示しました。表1のAは最も一般的な混播例ですが、マメ科牧草が優占しやすい条件（春播き、早魃になりやすい草地など）ではBのようにマメ科の混播量を減らします。一方、マメ科が衰退しやすい条件（冷涼地域など）ではCのようにマメ科の混播量を増やす必要があります。特にマメ科が衰退しやすい道北や根釧の一部地域では、Dのように小葉型のシロクロバに替えて、大葉型のシロクロバを利用します。

また、これらクロバ類との混播のほかに、最近ではギンギン用除草剤「ハーモニー」の普及により、Dのようにクロバのかわりにアルファルファを混播するケースが増えてきております（ハーモニーを散布した場合、クロバは枯死しますが、アルファルファは枯死しません）。

表1 チモシー早生品種の混播例

草種(タイプ)	品種	播種量 (kg/10a)				
		A	B	C	D	E
チモシー(早生)	ホライズン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
アカクロバ(早生)	マキミドリ	0.2	0.0-0.1	0.3	0.3	
シロクロバ(小葉型)	リベンデル	0.1	0.1-0.2	0.2		
シロクロバ(大葉型)	ルナメイ				0.2	
アルファルファ	ケレス					0.3
	合計	2.3	2.1-2.3	2.5	2.5	2.3

2. チモシー（中生、晩生品種）の混播例

中生や晩生品種は、早生品種と比較して刈り取り後の再生力が劣る傾向にあります。そのため、生育が最も穏やかな小葉型シロクロバとの単純混播が適しています。混播例を表2に示しました。この場合も、条件によってマメ科の混播量を加減する必要があります。

A（中生）とB（晩生）が一般タイプ、Cはマメ科が優占しやすい条件、Dはマメ科が衰退しやすい条件の混播量です。

中生や晩生品種は、2番草以降の節間伸長茎が少なく、葉部割合が高いのが特徴です。また、短草条件において密度が高まる傾向にあり、これらのことから放牧や兼用利用に適しているといえます。中生と晩生品種の比較では、晩生品種がより放牧に適しております。放牧、兼用利用における混播例は表2と同様です。

表2 チモシー中生、晩生品種の混播例

草種(タイプ)	品種	播種量 (kg/10a)			
		A	B	C	D
チモシー(中生)	ホクエイ	2.0		2.0	2.0
チモシー(晩生)	シリウス		2.0	(2.0)	(2.0)
シロクロバ(小葉型)	リベンデル	0.2	0.2	0.1	0.4
	合計	2.2	2.2	2.1	2.4

3. アルファルファの混播例

年間3回刈りの場合、オーチャードグラスとの混播が最も適しております。アルファルファとオーチャードグラスの混播例を表3のAに示しました。アルファルファの刈り取り適期は6月中旬前後であるため、オーチャードグラスは晩生もしくは極晩生品種が理想的です。早生や中生品種の場合は、6月中旬前後には出穂が進み、品質が低下してしまいます。

チモシーとの混播例は表3のBのとおりです。アルファルファは2番草以降の生育が旺盛なことから、チモシーは早生品種もしくは早生の利用が適しております。弊社の試験では、ホライズンがアルファルファとの混播に最も適していることが確認されております。

表3 アルファルファの混播例

草種(タイプ)	品種	播種量 (kg/10a)	
		A	B
アルファルファ	ケレス	2.0	2.0
オーチャードグラス(晩生)	バッカス	0.5	
チモシー(早生)	ホライズン		0.7
シロクロバ(小葉型)	リベンデル	0.2	0.2
	合計	2.7	2.9

(北海道研究農場 谷津)

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号
TEL(011)891-5911
FAX(011)891-5774